

ヘルペスウイルスの宿主細胞への侵入機構 Mechanism of herpes virus entry into host cells

森 康子 先生

神戸大学大学院医学研究科
臨床ウイルス学分野 教授

2017年3月28日 (火)
17:00~18:30

先端酵素学研究所 B 棟 1F 交流ホール
(プロテオゲノム研究領域)



ヒトヘルペスウイルス 6B (human herpesvirus 6B: HHV-6B) は、ヒトを宿主とするヘルペスウイルスである。活性化した T 細胞に感染して、爆発的に増殖するという興味ある特徴を示す。初感染は、乳幼児期であり、初感染時、発熱性疾患である突発性発疹を引き起こす。時にけいれん、脳症を併発し、後遺症を残す。その後、マクロファージに潜伏感染し、その生涯を宿主である我々とともにする。即ち、我々の体内に HHV-6B は潜伏感染しているといえる。最近、骨髄幹細胞移植、特に臍帯血移植後に HHV-6B が再活性化し、脳炎、脳症を引き起こし、致命的となり問題視されている。しかし、今のところ、HHV-6B に対する特異的な制御法がないのが現実である。

我々は、HHV-6 の T 細胞への侵入機構に焦点をあて、HHV-6 感染症を解析している。本講義では、我々の知見を紹介しながら、HHV-6 の T 細胞への侵入機構について述べたい。

参考文献 Wang B et al., PLoS Pathog. 2016 May 6;12(5):e1005594.
Tang H et al., J Virol. 2015 May;89(9):5159-63.
Tang H et al., Proc Natl Acad Sci U S A. 2013 May 28;110(22):9096-9.
Maeki T et al., J Virol. 2013 Jun;87(12):7054-63.

本講義は、クラスターコアセミナーを兼ねています。
教員、研究員、学部学生など、多数のご来聴をお待ちしております。

問い合わせ先：免疫制御学分野 (内 9158)、医学部学務課第一教務係 (内 9649)